

小学校国語

全国を基準とした清水町の子どもの学習指導要領の領域別学力の定着（2017年）

	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
国語 A	○	☆☆	★	★
国語 B	○	○	○	

- 全国とほぼ同じ水準である。
- ☆☆ 全国を大きく上回っている。 ☆ 全国をやや上回っている。
- ★ 全国をやや下回っている。 ★★ 全国を大きく下回っている。

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

- 既習の漢字を読む力が高く、ほとんどの子が正しく漢字を読むことができます。
- 物語や会話文の場面や部分から答えを導き出す力が身に付いています。

これからの課題（定着が十分でない）

- 漢字を読む力が身に付いている一方で、漢字を書く問題では、「たいしょう(対象・対称)」のように、同じ読み方の漢字について、意味を理解して正しく書くことについて課題が見られました。
- 全体の要点をつかんだり、文章全体から内容を読み取ったりすることに課題が見られました。

【例】

4 中西さんのグループでは、月の様子をよんだ俳句を調べ、その中から選んだ好きな俳句について、手紙で紹介しようとしています。次は、選んだ俳句についてまとめた「俳句カード」と好きな俳句を紹介するための【話し合いの様子】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【俳句カード】

ア 雷どけてくりくりしたる月夜かな
小林 茶
（調べた内容）

季節：雷どけて 季節：春
この俳句は、「寒い冬が終わり、雷がどけ、春が来た。月もきれいで明るくかがやく夜だなあ」とよんでいるそうです。

イ ひやひやと月も白しや秋の風
上島 寛
（調べた内容）

季節：秋の風 季節：秋
この俳句は、「秋のこぢりい風がふく中では、月の色もひんやりと白っぽいなあ」とよんでいるそうです。

【話し合いの様子】

北田 アの句は、「くりくりしたる」の「くりくり」がおもしろいね。声を出して読んでみるよ。（音読）
中西 リズムよく読んで、読むのが楽しくなるね。
「くりくり」というのは、月の（ア）を表しているのかな。春になったのがうれいのかもしれない。
本間 イの句の「ひやひや」も「くりくり」と似ているね。どちらも声を出して読んで紹介するよ。俳句のよさがもっと伝わりそうだよ。（音読）
「ひやひや」と「声を出して読むと、ひんやりした感じがますます伝わってくるような気がした。白」という月の色も、なんだかひんやりとした感じがするね。
青木 そうか。ふいでる風からも、見ている月からも、ひんやりした秋を感じているんだね。
中西 作者の伝えたかったことって、今、青木さんが言ったことなのかもしれないね。このこともみんなに紹介しよう。

一 中西さんは、【話し合いの様子】の（ア）でどのように発言しましたでしょうか。（ア）に入っている内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 かすんでいる様子
2 まっ白い様子
3 まんまるい様子
4 欠けていく様子

二 中西さんのグループでは、話し合いを通して、自分たちがつけた俳句のよさについても紹介しようとしています。紹介しようとしている内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 言葉のひびきや作者の季節を感じる心にそれぞれの作者の生き方や考え方を
2 それぞれの作者の生き方や考え方を
3 月の形が変化する様子や構成のくふう
4 季節の使い方や季節から想像したこと

正答は3ですが、文中の「白」という月の色から、2を選択した子も多く見られました。

正答は1ですが、【俳句カード】へ調べた内容に季節や季節が示されていることから、4を選択している子も多く見られました。

成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

- 漢字を書いたり使ったりする力を高めていくためには、文中での意味を考えながら練習していくことが大切です。漢字は継続的な練習によって確かな力が身に付きます。また、御家庭での見届けや声かけによって、覚えた漢字を日常的に活用する力が養われます。
- 読書の量や質を高めていくことで、様々な文章や言葉に触れ、語彙を増やしていくことも効果的です。また、親子で読書をしてどんな話だったか、最後にまとめて話してみたり、どんな場面からどんな感想をもったか話をしたりすることで要点をつかむ力も高まっていきます。